

平成 24 年 10 月 3 日

小中一貫教育実践校への移行について

平成 23・24 年度小中一貫・連携教育研究グループについては、平成 25 年度以降、2 年間の研究を踏まえて小中一貫教育実践校（以下「実践校」という）へ移行することとなります。実践校で期待される取組等は下記のとおりです。（中略）

1 小中一貫教育実践校の取組

主な取組としては、次の項目を想定しています。

- ① 研究期間中に作成した「課題改善カリキュラム」の改善・拡充
- ② 小中一貫教育に関する地域や保護者への啓発
- ③ 研究グループ連絡会参加（各校 1 名＝連携クリエイター）
- ④ 他の研究グループへの啓発（研究グループ報告会等での発表など）

実践校としての取組については、年度末に報告書（A 4 で 2 枚程度）の提出をお願いする予定です。

2 実践校へ移行する学校

研究グループ校がそのまま継続して実践校に移行する場合のほか、学習指導型連携グループ内で小中一貫教育の実践校となる小学校を増やしたり変更したりする場合があります。実践校となる小学校を変更する場合、研究グループにならなかった小学校が実践校となる一方、研究グループから実践校に移行しない小学校は「小中一貫教育連携校」となります。

3 課題改善カリキュラムの改善・拡充

実践校においては、研究グループで作成した課題改善カリキュラムを実践し、子供たちの実態に合わせて改善・拡充をお願いします。

連携する教科を拡大して、新たな教科について、子供たちの実態を話し合う、授業を見合う、合同で研究授業や研修会を行う、協力して指導案を作成する、課題改善カリキュラムを作成する、など学習指導連携の拡充も状況に応じてご検討ください。

4 小中一貫教育連携校の役割

学習指導型連携グループのなかで、小中一貫教育研究グループまたは小中一貫教育実践校となっていない小学校を「小中一貫教育連携校」（以下「連携校」という）と呼びます。

連携校では、中学校区別協議会等で研究グループや実践校の研究や実践を共有したり、授業を参観して意見交換したりすることなどにより、「課題改善カリキュラム」の視点や考え方を生かしていきます。

（以下、略）